

「株式会社 姫路シティ FM21」

第53回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成25年10月19日(土曜日) 午後1時30分～午後3時

2. 開催場所 イーグレひめじ4階 第2会議室

3. 出席状況

1) 委員総数 11名

2) 出席委員数 6名

3) 出席委員の氏名(敬称略、順不同)

岩成 孝	牛尾 賢悟	大谷 昭仁
難波 正司	柳谷 郁子	宮本 節子

4) 欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

岩田 稔恵	梅田 裕二	岸田 直美
衣笠 愛之	楠田 孝蔵	

5) 会社側出席者氏名

寺尾 雅晴	(放送局長)	
黒田 俊雄	(常務取締役 営業部長)	
小幡 博	(営業企画課 課長)	

4. 議題

1) 事務局より挨拶

- ・ 新任の番組審議委員紹介

2) 資料説明

3) 試聴

4) 意見交換

委員 Listen Radioについて、カーナビからも聴けるということだが、どうい
うことか？

課長 対応機種から聴けるようになったということである。

- 局長 接続用のコードが本体から出ているものもある。iPhoneなどもそれらにつないで聴くことができる。
- 委員長 Listen Radioはリアルタイムで聴けるのか？
- 課長 システム上、数秒遅れとなるが、リアルタイムである。
- 委員長 夏休み子供ラジオ教室について。事前の企画なり計画はどうなっているのか？
- 課長 当日にお越しいただいて受講していただいている。基本からはじめて、最終的には録音まで行う。
- 局長 ラジオ教室について。資料にある写真が最終仕上げの状態である。そこに至るまでに、発声練習や機材の練習を行っている。来られる方は初対面の方が多い。そこからスタートしている。メインで進行している津雲パーソナリティは、彼女が一から最後まで教えていくという形でやっている。
- 委員長 パーソナリティの力量が問われるのではないかと？
- 局長 かなり占めていると思う。スタジオでの収録までは、別の部屋で練習をしている。すべてで3時間程度のコースである。
- 委員 子供ラジオ教室について。子供たちが番組の企画をしたり、どのような番組が聴きたいかという討議をするほうがよい。興味を持つようになる。
- 局長 企画段階から考えてもらうということか？
- 委員 それが子供たちの関心をいちばん引き出す方法である。
- 委員長 年齢差はあるのか？
- 局長 ある。特に小学生は1学年かわるとできることがかわる。低学年もいれば高学年もいる。
- 委員長 小さいころからラジオに親しむということは大切である。
- 委員 スマートフォンで声を聴くということは、子供たちはやっている。したがってラジオに興味関心を持っていくということは可能である。

委員長 パソコンを通して聴くサイマルラジオのアクセス数は増えているのか？

課長 増えていると思われる。FMゲンキでは各番組のブログを作っているが、更新している番組はアクセス数も多い。

委員長 色々なメディアを使って前へ進んでいる。

委員 Listen Radioもインストールしている。ラジオよりもクリアに聞こえるので利点である。ときおり止まったりすることがある。

委員長 クリアに聞こえるということはメリットである。

課長 FMゲンキ側もパソコンで送り出しているので、時折不具合が起こる。その場合は、再起動で対応している。

委員 トライやるウイークの実況放送をしてはどうか？受け入れ企業の広告にもなる。

課長 トライやるウイークの受け入れはしている。

委員 他の会社について、実況放送をするべきである。引受企業から広告をもらえる可能性がある。親御さんにも興味を持ってもらえる。

委員 トライやるウイークでインタビューをすれば、みんなが聴く。偏らないようにやればよい。民間だけではなく、学校にもトライやるがやってくる。掃除をしたり本を並べたりしている。子供は自分がインタビューされたりすると、SNSなどを通じて広がりがある。

委員 引き受けても意見を聴ける。ぜひトライやるウイークを活用するべきである。防災について。先日も伊豆大島で被害があった。FMゲンキには基準はあるのか？

課長 警報が発表されると、深夜早朝でも社員が出社し放送している。警報が出るまでは通常番組の中で放送している。台風が接近している場合も、放送をしている。警報がでると、姫路市危機管理室も対応を取るのので、互いに連絡を取り合っている。警報が出ていても、中心部では現実感がない場合も多いが、姫路市は広域なので対応している。

委員長 致命的なトラブルはあったのか？

- 課長 2年前の台風の際は危機管理室も情報発信しにくい状況になっていた。その反省をもとに、年1回合同会議を実施している。災害時は姫路市側も手が足りない。大災害の場合はFMゲンキから災害対策本部に人を派遣するように申し合わせている。電話が鳴っても職員がとれない状況になるそう。
- 局長 立場上、災害対策本部に詰めたことがある。消防職員等以外にも応援を求めて、他の部署の職員も電話対応を行った。市民からの問い合わせや情報提供が一気に入ってくる。本来はその状態を発信できればいちばんよいのだが、メディアに発信できるだけの情報がまとめきれない。本部の中でも収集→分析→対応という流れができない。
- 委員 民間にモニターを引き受けてもらえばよい。
- 局長 自治会長が対応している。日常は対応していただいているが、一気にくると対応しきれない。我々が災害発生によって現地に赴いても、公共の電波に乗せることができるだけの情報を集めることができるかはわからない。先走りはできない。
- 委員 NHKでもラジオを聴くようにと言っているが、地域で災害が起きた時は身近なことを知りたい。その時にFMゲンキが役に立たなかったら、市民から見放される。そこはしっかりやらないといけない。
- 局長 それは生命線ともいえる領域である。
- 委員長 知識を持ったものが判断しないと仕方がないのではないかな。いい加減な情報を発信するとパニックにつながる。
- 局長 方法の一つとして、資料においても公開生放送の企画があったが、このような外に出て設備を作って放送をするという経験は大切である。先ほどの試聴していただいた防災訓練の特別番組でも、ぬかるみなどという状態ではない。長靴でないと歩けなかった。音声はクリアに聴こえていたが、実際はすごい騒音の中でインタビューをしていた。
- 委員長 「大ちゃんの絆通信」について。スポンサーをつけるという番組だが、どの位の経費が掛かるのか。
- 課長 パーソナリティとディレクターの経費に電波料がかかる。資料通りの金額がもらえるのは少ないが……。昔は県域局の価格が高かったが、今は安くなってきている。このあたりとも競合している。

- 委員 できるだけ子供たち、具体的には高校生以下の子供たちを取り上げると親も聴く。私は各学校で大会に出場したという横断幕をよく見るが、そういうところを基準を設けてインタビューをしていけば、リスナーは確実に多くなる。
- 課長 FMゲンキは他局に比べてゲストコーナーが多い。毎日、各番組にゲストがいる。元気人のコーナーは土曜日に関しては学生さんが多い。また、各世代が出演する番組を設けている。全国大会に出たから、という基準ではなく、随時紹介している。
- 委員 平等の原則もいいのだが、全国大会に出た子を取り上げることで底を引き上げることになる。大人も若い子たちが頑張っているとうれしくなる。
- 課長 先日も吹奏楽の大会に出演した学生がきたが、ギャラリーも多かった。文化系や柔道、野球などは団体からリリースしてくれる。それ以外はつかみ切れない部分も多い。若い世代が出る番組が少ないということはないとおもう。
- 委員 出演者は大人が多いと思う。パーソナリティの方たちも落ち着いてきて良い感じである。最初は甲高い人がおおくかなわなかった。車を運転するときはFMゲンキを聴くようにしている。
- 局長 今日もお昼のゲストコーナーで学生が2名出演している。
- 委員 とても良い光景である。
- 局長 子供さんは色々な制約が多い。スタジオに連れてくるだけでも困難がある。しかし、開局からの流れでゲスト出演は多く、理解もある。
- 課長 フリーマガジンでも、高校生に取材をしたコーナーの紹介をしている。取材に行く場合は、相手方の制約は少なくなるが、FMゲンキ側の負担が大変である。
- 委員 いちばん星という番組があるのは知らなかった。
- 委員長 取材依頼はFMゲンキから行うのか？
- 課長 そうです。生徒が出たいと思っても、学校の許可が必要。飛び出せ！まちの元気人については、土曜日は学生さんが多い。また、GENKIラジオ新聞については、全国レベルの学生を紹介している。

- 委員長 この頃メディアで姫路という言葉がよく出てくる。
- 課長 今日欠席の衣笠委員もよく色々なメディアに出演されている。今、地元アイドルがもてはやされているが、NHKが選んだ兵庫の地元アイドルは姫路の姫っ娘5である。よく取り上げられている。
- 委員長 インタビューも大変だと思う。
- 局長 編集作業が大変である。看板番組である「飛び出せ！まちの元気人」では、本番前に15分程度打ち合わせ、その後はいきなり本番となる。初めて出演される方は原稿を多く用意される方もいるが、いざ本番が始まるとパーソナリティとのトークが弾んでいる。

午後3時、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。